

議会報告会報告書

テーマ	個別的な視点(議会報告会で出された意見等)	市長への 申入れ 事項
1	市から分団の屯所の設置場所の希望を聞かれても、今後高田の町がどうなるのか、高台はそれぞれどこにどれだけの戸数になるのか全くわからず、回答しようがない。団員についても、どこの高台に住むのか、どの災害住宅に入るのか不明だ。高田は6部あるが、その場所、規模は今わからない状態だ。(高田分団)	
2	被災した屯所以外でも、傾いている屯所(4部・根岬)がある。代替地も決まっているので急いで整備してほしい。(広田分団)	
3	ホースの乾す場所がほしい。団員が現在は分散しているが、滝の里に乾燥場所をつくってほしい。(気仙分団)	
4	屯所は計画的に新しくしてほしい。横田3部(槻沢)は水で困っている。ボーリングしてみたが、飲める水ではなかった。(横田分団)	
5	屯所の建て替えは何年という基準はあるのか。何年経ったら建てられるのか。(竹駒分団)	
6	2部の屯所(下矢作)で外壁のペンキ塗り替え工事中だ。(矢作分団)	
7	小友1部は建てるばかりになっているが、業者がまだ決まっていないようだ。4部の屯所(駅前)は土地が見つかったようだが、その後はまだ不明。3部(矢の浦)も狭く古い。駐車場もない。(小友分団)	
8	2部の屯所の予算は議会も通ったので、建築を待つだけとなった。1部は高台の場所も決まり待つだけとなった。(米崎分団)	
9	報酬を上げればどうなるのか、上げる目的は何か。上げれば参加する団員が増えることではないと思う。今日の演習の参加も少なかった。仕事の都合やPTA活動が優先になっている。報酬のことだけでなく、スケジュール・行事の調整などを市や教育委員会に要請したい。	
10	演習はこの時期しかできない。団員を500人集めることは永遠の課題だ。決着がつかない。行事は年間行事として日程を決めたい。	
11	教育委員会などは、PTAに対し消防の行事のことも周知してほしい。震災後は、NPO等の活動で行事も多くなっている。行事を辞めろというわけではなく、他の協力体制をとってほしい。	
12	報酬は、団員確保にもつながる。家族への感謝もあり、団員の待遇改善や周りの目も消防に向いてくると思う。報酬の使われ方はご存知と思うが、若い人は飲み会離れになっている。そういう団員を巻き込むため、報酬確保をお願いしたい。大船渡、住田とも格差2,000円、3,000円は差があると思う。幹部研修に行ってほしいが、日当1,900円だけだ。たとえば5,000円くらいは考えてほしい。	○
13	企業への働きかけをお願いしたい。団員にサラリーマンが多い。消防で休みをとりたくても、有給や欠勤となってしまう。優遇措置があれば、団員に誘いやすい。	
14	団員確保について、団員30人切ったことは重要な問題。部の統合は考えられないか。車両に7人しか張り付けない。	
15	団員が増えたというが、バリバリの若い団員ということではない。団員の勧誘で家族の猛反対もあったことも。会社のことでは、社員として震災で亡くなった例もあり、消防団に入るのは辞めてほしいと言われたこともある。それに、高田分団の場合、消防に入れたとしてもどこの部に入れたらいいのか迷う。	
16	水門が二つ使用不可能になっている。有事の際の十日市場の水利を考えてほしい。	
17	下沢と滝の里地区は交通量が多くなり、大型車両も多く、すれ違いができないところもある。道路の件も消防のこととして考えてほしい。	
18	横田地区は水道が普及していない地区もある。消防水利として溜池などを使っている。水利箇所の見直しを考えてほしい。	

テーマ	個別的な視点(議会報告会で出された意見等)	市長への 申入 れ事 項
19	商店街形成が課題。来年かさ上げが終わると思う。そのためいろいろな準備が必要。経験したこともなく大きな課題だ。ビジョン推進委員会を設置し勉強会をやっている。	
20	新しい商店街について、年内にゾーニングするため正念場だ。グループ補助金を使って、建物や備品を整備する人が大半だ。あとはグループ補助を使えない人をどうするか。町内では再生計画、津波立地補助金との2段階を構えた。これから、どうグループ形成するか、商工会窓口か、ある程度グループ分けるかも県の経営支援課と協議している。 まちなか津波立地補助金は、上限が5億円のしぼり、被災していない場合は3分の2の問題等をとりまとめてどう進めるか考えたい。上限が低いので撤廃は必要。国の復興局へ働きかけを引き続きやっていく。(条件の部分で)	○
21	震災後、起業を希望(グループ補助も、津波立地補助も該当外)の場合、その方々にはアドバイスできない。市の補助金であれば、紹介できるが、どうアドバイスできるかが課題である。	○
22	すでにグループ補助が採択になった人、採択されたが繰り越しの人もある。やむを得ず繰り越しする場合には、繰り越しができるように国に働きかけしてほしい。ぜひお願いしたい。	
23	大事なことは、大家さんからテナントを借りている人だ。建物を大家から借りている人。そういう人たちの出店についてどうしたらいいかも大きな課題だ。共同では可能だが、個々の店のリスクもあるので、なかなか共同でというのは難しい。建物どうするかが課題となっている。	
24	震災以前の状況に戻れるかというより、考えさせられるのは5年後どうなるのか知りたい。そのまま使いたい人もいる。(仮設店舗のことか)	
25	仮設店舗について、5年経てば解体は自己負担となる。何百万円もかかる。それに借地の問題もある。	
26	沿岸全体の状況がどうなっているのかも知らせてほしい。	
27	住宅兼店舗の条件が変わったようだ。これまでは店舗にグループ補助があった場合、住宅分のローンができなかった。それが見直しとなった。このことで助かる人も多い。	
28	これまで市長と議長に2回にわたって要望してきた。商工会館復旧では補助はグループ補助の4分の3ではなく2分の1だった。これだと5千万円の手出しが必要になる。4分の3になるように要望した。中心商店街は先行して整備を要望したが、実現してきている。さらに、公設民営の共同店舗について、福島以外は市が実施主体になれない。何とかそれができないか、要望したい。店子さんたちも困っている。来年の秋口から順次着工できるが、震災関連施設や文化施設など集客できる施設をつくってもらいたい。そういう施設をつくってもらわないと購買力が出てこない。一本松の集客を商店街に来るようにしてほしい。一本松に来た人は、そのあと気仙沼や大船渡に行ってしまう。周りに宿泊施設があればと思う。また、飲食店街ができればいいと思う。 意向確認調査では、130業者が戻ってくるという意向。せっかくその人たちがいるので、本設で出店したら商売にならなかったということがないように、商店街形成で工夫してほしい。	
29	どこに立地するかアンケートはゾーニングのとき実施したが、まばらなので集中しコンパクトにできないかと、再度説明して意向を聞きたい。コンパクトというのは小さいだけではなく機能を凝縮させたいということ。文化施設、震災関連施設、行政の機能も入れるものや必要なものが入れれば、市民の人たちの生活の拠点となるよう、中心地の一つの顔としたい。米崎のイオンとの差別化による商店街形成を図る必要がある。	
30	大町の30%減歩という問題や、市との関係とかもある。借地して商売を考えている人、換地で商売をする人もいて、個々の課題がある。	
31	なぜ以前に大町は区画整理しなかったのか。それぞれ自分たちでセットバックした。同じなのに35%減歩に。減歩率を下げてはという人も多い。大町の人、100坪あった人は65坪。店として大きくない。	
32	まちづくりのいろんな公共施設について、図書館はどこでも集客力になると考えている。これからの商店街は買い物だけではなく、図書館などがあればと集客としても期待を寄せている。	

テーマ	個別的な視点(議会報告会で出された意見等)	市長への 申入れ 事項
33	集客力では、金融機関のエリアも予定されているが、ゾーンによっては、充足率の高いところ低いところが出ている。しかし、そこには公園が入っていないのでE地区の充足率は高くなるので組み替える。直接事業者に出向いて行って、精度の高い話し合いをしている。今月末に勉強会をしたい。	
34	ゾーンをどう埋めるかがテーマで、公園とかはこれからの話だ。とにかくお客もすぐ帰るのでなく、滞在型の商店街をめざしている。	
35	神戸の長田地区の事例について、そこには行政機能がなかったことが指摘されている。平成24年9月14日の市長へ要望しているが、市の庁舎を10mかさ上げした中心地におき、避難所としても利用できるようにと提案したが、市民に理解されなかった。かさ上げすれば市民の意識も変わってくると思う。行政組織は一番の集客力だと思う。	
36	2点聞きたい。①神戸の長田地区は借金が増えたという声を聞き心配しているので、そうならないようにしてほしい。②それに、必要な施設として加工できる施設はどうなっているのか。羊羹やリンゴは加工しないと付加価値が出てこない。農業の六次化や加工で市内の業者に使ってもらえるように。	
37	テレビの報道ステーションで高田町6,400人のうち1,100人なくなったと報道していた。①かさ上げに1,000戸住宅を建てる計画だが、市はどれくらい住宅を建てるのかを把握しているのか、買い物にも行くのがどれだけいると見ているのか、②公営住宅への家賃安くてもいいのではないか。	
38	震災前、商店街が各町にあった。市の方では中心市街地以外の事業所とかをどうするのか、考えているのか。まちづくり協議会あったが、今泉中心だった。いまは今泉が見捨てられているようだ。今泉でないと事業やれない人もいる。今泉がなくなってしまう。醸造業など。高田町中心ではなく議論が必要。今泉だけで独自にやっていくのか。	
39	山を削っているが、今泉を早く埋めろという声がある。今泉地区はまちづくりの話し合いが早かったが、気持ちがいま薄くなっている。	
40	過疎化が進む中で、高田今泉の商業が伸びていくためには、加工業の必要性もそうだが、よそから人がくる町にしないと難しい。震災前もシャッターの街だった。図書館設置の話もあったが、昔のイメージの図書館ではなく、例えば、仙台の図書館ではメディア戦略で映像の編集も可能。高田の図書館に新しいメディアセンターの形も感がないと、他所からは来ない。新しい時代を見据えたまちづくりを。リンゴの加工など、今まであった機械には補助が出るが、新しい機械には制限があるので、制限を取り除くように国に要望していくべきと思う。新しいまちなかに、工場を薦められない。そうした制限を変える要望も必要と思う。例えば、仮設店舗で現実的に未来志向でやっていくとか。	
41	「きりんの会」立ち上げた。菜の花の外来種、セイダカアワダチソウは生態系に影響している。一人ひとりが集まって100人でやれば相当抜けると思う。会は私一人だが、そういう一人ひとりの力をあつめていくことがこれからのまちづくりには必要なのだと思う。	

テーマ	個別的な視点(議会報告会で出された意見等)	市長への 申入れ 事項
42	仮設住宅の家賃が高いのではないか。	
43	仮設住宅連絡会が来年3月でなくなると聞いている。高田町に下和野住宅が完成したこともあり、各地の仮設住宅で自治会長などを務めていた人がいなくなった場所もある。連絡会は市外からのボランティアの窓口になっていた。今後、仮設住宅の被災者が窓口になるのは難しい。引き継いでくれる個人や団体があればと思う。	○
44	次の住まいの目処がたたない。防災集団移転で当初希望した高台の場所を造成できず、第三希望の場所に移転を考えている。しかし、その場所は陽当たりが悪く困っている。	
45	周囲の山々の木を切ったせいか風の向きが変わった。風が強くなったようにも思う。	
46	高田町の下和野に災害公営住宅が完成したが、集会場所には何ら備品がない。イスとテーブルはあるが、スリッパやトイレトーパー、座布団など、最低限の備品は事前に用意してほしい。	
47	災害公営住宅などへの引っ越しについて、業者の領収書がないと10万円の補助が受けられないと聞くがどうか。	
48	高田地区の防災集団移転事業で2年以内に住宅建築の契約をしなければならないという話がひとり歩きをして、被災者の間で混乱している。中には広田地区でも2年以内との話が出ている。	
49	災害援護資金貸付制度について、350万円の貸付は被災者にとってはありがたい内容。もっと広く宣伝すべき。	○
50	土地区画整理事業について、事業主の案があたかも決定事項のように権利者に認識され、事業が進んでいるように思える。スケジュールが遅れる危険性を感じる。	
51	土地区画整理事業区域と防災集団移転促進事業区域が混在している場所があるが、かさ上げしない平地は防集だけにしたほうが平等ではないか。	
52	かさ上げ地の法面は津波防災施設として整備する方がいいのではないか。高台へのアクセス道と法面は道路整備事業とするほうがいいのか。そのようなことで公共減歩の割合を低くできるのではないか。	
53	津波浸水想定について、法律によって「悪条件下を前提にし、防潮堤も壊れることを想定しなさい」とされているが、いま公開されているところは防潮堤を津波が越流しても壊れないものとして考えられている。浸水想定を見直すべき。	
54	気仙川水門や松原の防潮堤、浜田川水門について、住民に対する県の説明がない。ほかの地区ではやっているようだが、高田地区ではやっていないのではないか。	
55	市街地復興効果促進事業について、申請認可時と現状が即したものとなっているか精査すべきではないか。	
56	ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりアクションプランへの提言募集について周知が足りないのではないか。	
57	災害公営住宅には、被災していないUターンやIターン者が入居できないので、戸建ての公営住宅を復旧してほしい。	
58	区画整理事業では、防災集団移転と違って協議会がつくられないが、必要ではないか。高台に移転が決まった時点で、移転者同士の協議会をつくるなど、移転場所が決まったら準備会などを設けるべきと思う。	
59	土地利用計画策定について気仙町や広田町で動きがある。米崎町や小友町でも漁業集落防災強化事業を進めていくべきではないか。	
60	私は、しばらく仮設住宅や災害公営住宅で生活し、そのうち自宅を再建しようと思っていた。しかし、市から「災害公営住宅に入るのか」との問い合わせがあった。「入居者が少ない」ということを知ってショックだった。	
61	災害公営住宅の家賃は、所得に応じてということだが高く大変。入居しても、間もなく出ていく人がいるのではないか。	

テーマ	個別的な視点(議会報告会で出された意見等)	市長への 申入 れ事 項
62	公営住宅に入居しても、再び仮設住宅に戻ることができるのか。家賃が高くて戻りたいと思う人が出てくるのではないのか。	
63	家賃設定は変えられないのか。被災者が入居する災害公営住宅というなら、考えてほしい。	
64	仮設住宅は家賃がないので、公営住宅とのギャップが大きい。	
65	仮設住宅を出るとき、エアコンや温風機、物置などは置いていかなければならないようだが、仮設に最後までいれらるるとの報道があったがどうか。	
66	宮城県などではエアコンがもらえたりしているようだ。	
67	高台移転先の土地単価が違うようだ。	
68	被災者への支援制度で、今後新しい内容のものはないのか。公営住宅の家賃が高く、自宅を再建するにも借金ができない。これまでの支援金で新たな家を建てるには足りない。もう少し支援をお願いしたい。	○
69	高台移転で土地の引き渡しを受けた後、2年以内に工事をしないと土地を返さなければならないとの話を聞くがどうか。	
70	固定資産税もすぐに納めなければならないのか。	
71	当初、とりあえず公営住宅に入って自宅を再建しようと考えていたが、家賃が高くて入れない。	
72	高田高校の仮設住宅に住む人たちが「出て行ってほしい」と話されたと聞くがどうか。	
73	防災集団移転事業や宅地造成を終えたら、仮設住宅の撤去についての方針を示してもらい、計画的に転居を進め、子どもたちの教育環境を整えていくべき。早めに学校の校庭を空けていかなければならない。	
74	子どもたちは運動量が減って太っているのではないのか。以前は体育が得意だったのに、リレーの選手にも選ばれなくなった子がいる。	
75	学校の休み時間に米崎小学校へ行くとひっそりとしている。あるとき、大きな声が聞こえた。それはお昼休みの時間で、サッカーしたりしていた。中休みの時間は遊んでいないようだ。	
76	仮設住宅暮らしが3年数カ月経ち、救急車を要請する機会が多くなった。現在の医療費助成は大変ありがたい、今後、住宅費がかかり、医療費の助成が打ち切られると負担が多くなる。出来る限りの医療費助成の継続をお願いしたい。	
77	復興事業に関する市の派遣職員や事業者は精力的に仕事をしている。本当に感謝している。	
78	自宅を再建する際、市の建設業界から無償で設計してもらいながら市外業者に施工してもらってもさまざまな補助をいただけるのか。	
79	合併浄化槽は家の大きさに決めるのか。それとも家族の人数で決めるのか。	
80	漁業を活性化するためにも漁港の整備をお願いしたい。	
81	新笹ノ田トンネルに関し、市内でも署名活動が行われた。一日も早くできればいい。路面が凍結する冬場の危険解消につながる。	○
82	震災の検証について、もう少し市民から話を聞いてほしかった。今後、震災を風化させないためにも「3・11を震災の日」との話も出ている。検証報告書には町別や避難所別の犠牲者数は出ているが、風化防止のためにも行政区ごとの犠牲者数を出してほしい。	
83	防潮堤は12.5メートルの高さで整備されるようだが、背後内の活用についても検討すべき。すでに気仙町と広田町で進められており、米崎町や小友町でも取り組むべき。国の補助制度もあると聞いている。	
84	山田町でNPOの問題があったが、市内で同じような問題は出ていないか。	

議会報告会報告書

テーマ	個別的な視点(議会報告会で出された意見等)	市長への 申入れ 事項
85	人手不足が課題である。	
86	復興中心に進めてきた。経営計画を立てて進めているが、遅れている。来年も原木が不足する事態だ。	
87	県内企業で木質バイオマス発電に取り組むところがあるが、原料の供給が不足するのではないか。1立米あたり2,000円安いいため、県外への出荷となる。内陸は切る山があまりない。気仙が供給源として考えられていると思う。生産量は気仙が一番多い。	
88	林業振興で川上から川下までとは、よくいわれるが、具体的には何を指しているのか。	
89	木のグレードに合わせて利用することが大切だ。(材木からチップまで)	
90	現在は市内の人工林率は6割を切っている。皆伐で植え付けをしていない。	
91	企業の経営計画では、安いものを使う。自由化されているので厳しい。九州との戦いだ。	
92	工場により用材のコストが異なる。	
93	原木は、合板会社が主に値段を決める。そこで少し値があがる。45,000円のものが乾燥・プレーナー仕上げで55,000円ほどになる。	
94	森林税については協定における期間が長すぎる。分収林には使えない。	
95	山主は70才中心で20年後に切る場合、だれがどうするか。だれもやらない。一気に5割を切ると災害の可能性はある。	
96	再生林は難しい。年金と同じような状態。	
97	住宅の供給については、需要が楽観できない。東京オリンピック後はどうなるのか。	
98	住宅の建設には、材木は施工費全体の10%しか使わない。他が高騰しても木材は、ほとんど値が変わらない。	
99	住宅新築は減っても、アパート等は減らない。介護施設や店舗も需要はある。CLT(2階より上は木造構造)の時代はくると思う。2年後に国土交通省で認可が出るだろう。	
100	市として木材利用をどのように考えているのか。他産業への支援が手厚いように思える。	
101	人口減対策として、自然に近い形の林業のことも職種として若い人たちが考えることができるようにならないかと思う。木を身近に感じる公園や林業体験など、できないか。	
102	氷上山の山頂は、手入れをすべきではないか。	
103	学校などの木質化についてというよりも、公共施設での木材利用を進めてほしい。市として明確にそうした方針を出してほしい。	○
104	これまでの施策として、みどりの雇用で10人が定着した。震災後の雇用は難しい。機械化が大切だ。	
105	災害の際などに化石エネルギーだけにたよる体制はもろい。公共施設に化石エネルギーと木材によるエネルギーといった二段構えの準備をすべきではないのか。	
106	作業の効率をあげるために林道の側溝のフタをかけてほしい。	
107	円安の影響があり、国産材の安定供給ができない。	
108	林業において岩手は全国で下から2番。賃金アップが若者対策には一番大切なこと。	
109	津波で被災した事務所の再建には補助や支援がなく、利子補給だけであり、再建が難しい。	
110	箱根山の遊歩道が荒れているが、放置されている。整備を進める必要があると思う。	
111	山林の所有者が震災でわからなくなってしまった。	
112	気仙材にとびぐされが多い。	
113	外材とバランスをとってやっていくしかないのではないか。	

テーマ	個別的な視点(議会報告会で出された意見等)	市長への 申入 れ事 項
114	<p>四国高知県で中嶋健造(NPO)土佐の森・救援隊事務局長から近年新しい形の林業として注目を浴びている「自伐林業」について話を聞く、木質バイオマス(林地残材)の利用、中でも木質バイオマスの収集運搬システムの全国初の成功事例、仁淀川町では林地残材を収集運搬してエネルギー転換して最終利用する「高知県仁淀川流域エネルギー自給システム」の構築を手掛けており、林地残材の収集運搬システムの運用が、非常に上手くいきはじめています。</p> <p>現地を視察した際、林道幅は2m程度、1週間前に1100mmの降雨でも林道は壊れない…山の保全を考えている(自然と調和のとれた林業)</p> <p>自伐林業も100haの所有であれば可能と思われるが、陸前高田市ではムリ、しかし、地域共同では可能ではないか、その為に、大型の炭釜を計画している。(生出地区林業研究会)</p>	
115	<p>林業研修生の受入を補助金(18万円)を投入して、若手林業者を都会から受け入れ。3年間、2人を雇用し、後継者育成を図っている。</p>	
116	<p>宿泊所を運営してボイラーの木質化を図る</p>	
117	<p>両角先生との交流から木質エネルギーの利用促進を、生出地区の資源である木材(間伐材)の利用促進を模索している。</p>	
118	<p>炭釜作成、しかも間伐材の高度利用目的に大型の炭釜を作成したい。その後押し(補助金等)をお願いしたい。鉄板を使って発電も視野に入れているが、木炭車の実績もあり蓄電から発電までを考えている。但し、高価な炭を使うのではなく、間伐材利用の炭を使って。生出地区では1kg150円、100g15円の炭。大型炭釜は、20m<sup>3</sup>の間伐材から約2tの炭が出来る。ダムに溜まった木材から大雨での流木まで利用可能。</p>	
119	<p>エネルギーシフトを目的に結成。林業を通して循環型エネルギーを考える事を目指す。植林してない、再造林率30%、主伐は64haのうち再造林されていない面積は約40ha。この40haをどうするかが課題。化石燃料から木質バイオへの転換が必要。</p> <p>県内各地に大型のバイオマス発電や代替エネルギー施設が開設予定、なので陸前高田市では今着手するのではなく、各地の動向を見るのも一考に価する。エネルギーの多目的利用、熱利用等も考える。</p> <p>自伐林業も林業の一つの形態と認識し否定はしない。高価な大型機械を導入しても利用頻度が少なければ経営に負担がかかる。</p>	
120	<p>間伐材利用は林業のサイクルでは重要。間伐材を引き取ってくれる仕組みがあれば放置間伐材は減少し山の環境も良好に保たれると思われる。</p>	○
121	<p>行政との連携は重要。林業だけの問題ではなく地域全体のエネルギー問題と山の環境保全という視野に立って施策を考えて欲しい。</p>	○
122	<p>ノーマライゼーションを林業の視点で何か無いかと聞かれた時、木材を加工する工場であれば、例えば名刺等を加工するのであれば障がい者の雇用ということも考えられる。</p>	
123	<p>生出地区では立教大学との交流がある。ハード事業については、行政と森林組合で施策等の方向性を示して欲しい。</p>	○
124	<p>住田の事例、(モアツリーズとの連携で)間伐体験を行ない林業従事者とも交流が生まれる、交流人口拡大には一つのヒントになるのではないか。その場合、林業担当行政だけでなく商工観光との行政内連携も必要ではないか。</p>	○
125	<p>水車を活用して、ハウス園芸等にチャレンジしている、今後、電気自動車の充電スタンドを生出に作ろう！という取組みを考えている。夢のような話だが、可能性に取り組んでいる。</p>	
126	<p>生出木炭祭りも28回を開催、地元の高齢化もあり継続も困難もあり、30回を機に止めよう、と思っている。</p>	
127	<p>エネシフはあくまで木質エネルギーを考え、地元建設業者のネットワークで一部活動しているが、この地域で何が一番需要が有るのか等を研究中。ペレットは今の灯油の相場であればペレットの方が安価。PR不足も認識してる今後研究調査を重ね、需要と供給のバランスを見ながら相対的に利用度を上げて行きたい。</p>	
128	<p>ホダ木不足について、木炭の原料となるホダ木が不足している。放射の汚染も原因しているが、困った事にこの木炭の原料のホダ木は、名目上、椎茸原木として購入しているので、木炭の里生出地区としては、産業としても重要なので、この辺の緩和策を要望する。</p>	